

(注意) 解答用紙の表に I~III, 裏に IV と V の解答欄がある。解答は解答用紙の所定欄に記入すること。時間は 90 分。持ち込み不可、解答用紙の追加はしない。

【問題 I】(20 点:各 4 点)

次の 言明の下線部分に誤りがあれば、解答用紙に × (バツ) と記して理由を述べなさい。正しければ (マル) とだけ記しなさい。

ラテンアメリカ的な伝統的な私的大農園制度は、アジアでも広範に観察することが可能であり、農地改革を難しいものになっている。

限界生産性が賃金を上回っているとき、完全競争の下では、資本家は労働者を減らすことによって利潤を増加できるので、利潤は最大化されていない。

定額借地制度の下では、小作人が一方的に収量変動のリスクを負担するため、収量変動が激しい発展段階の初期では小作人はこの制度には合意しない可能性が高い。

土地なし労働者とは、地主から土地耕作権だけを与えられた農村労働者であり、東南アジアや南アジアにおいて広範に観察することができる。

労働と資本から生産を行っているある企業が、労働と資本の投入量をそれぞれ 1 単位ずつ同時に増大していくと、生産量の増加分が減らなかったという。この企業では、労働の限界生産性の逡減は作用しないと考えられる。

【問題 II】(15 点:各 5 点)

次の ~ の用語を 2~3 行程度で説明しなさい。

クズネットの逆 U 字仮説 (Kuznets' inverted-U hypothesis)

貧困の悪循環 (vicious circle of poverty)

食糧不足点 (shortage point)

【問題 III】(20 点:各 10 点)

以下の (A) から (C) の 3 つの小問から任意の 2 つを選択し、解答用紙に選んだ問題を明記した上で、答えなさい。解答する順番は順不同でよい。

(A) フィリピンのある農村では、一日 120 ペソの賃金を保証されている。また、農民は、マニラの労働者が 160 ペソの賃金を稼得していることを知っている。授業で説明した人口都市間労働移動の議論を前提とすると、(1) この農民は、これらの情報だけでは都市へ移動しない。理由を述べよ。また、(2) 都市へ移動するための条件を求めよ。

(B) 授業では取り上げなかったが、A.K. センは、労働者の減少によって生産量が変化しないことは、限界生産性がゼロの「労働者」の存在を意味しないことを示した。このことを次の式を利用して説明しなさい。

$$Y = f(L)$$

$$L = nt$$

ただし、 T :生産物、 f :生産関数、 L :労働、 n :労働者数、 t :労働時間

(C) 開発における女性の参加 (woman in development) の意義について、発展途上国の人口問題の観点から論じなさい。

【問題Ⅳ】(15点)

経済発展における「緑の革命」の意義とそれが村落共同体に与えた影響について論じなさい。ただし、以下の4つの用語を用い、初出の際に下線を付すこと。

4つの役割、貧困の共有、刈り取り慣行、土地無し労働者

ここで、4つの役割とは「経済発展における農業の4つの役割」を指す。

【問題Ⅴ】(30点)

次の ~ の間に答えなさい(求められる数学の知識は2次関数の微分のみ)。

途中経過は残しておくこと。

次のような農産物を生産している農村経済を考える。

$$(\text{生産関数}) Y = -1/2 \times L^2 + 100L$$

ただし、 Y :生産量, L :雇用労働量 ($0 \leq L \leq 100$) である。

$$(\text{農村市場賃金}) w = 40$$

ただし、賃金は農産物で測ったものである。

賃金労働制において、(1) 地主の利潤を最大化させる雇用労働量を求めなさい。ただし、地主は価格支配力はなく、price taker である(以下同様)。 (2) このとき地主の利潤を求めなさい。(10点)

小作率(地主取り分:小作人取り分)が1:1の分益小作契約の下では、小作人はどれだけの労働を供給するか。(10点)

取引費用を考慮しないものとして、 のとき、地主は、 の労働量の投下を小作人に説得することができるか。その理由とともに答えよ。(5点)

取引費用を考慮しないものとして、地主にとっての最適な小作率(地主取り分:小作人取り分)を求めよ。(5点)

得点には全く影響しませんが、余裕があれば、解答用紙裏の余白に授業や試験の感想を記してください。